充実した毎日を過ごす親子に拍手

ＨＰのバックナンバー：福祉・教育・医療関係 2003 年 03 月 17 日「『地域の小学校へ入学』の報 」に記載のお母さんから、今日以下のメールをいただきました。

「慌しくも、充実した毎日を過ごしております。〇〇子も初めての学芸会に体調を整え参加することができました。同学年内だけでなく、他学年児童との関わりも少し深まったようです。『歩けない、吸引が必要、話せない』→病気、と捉えていた子供たちが『病気じゃなく、これが〇〇ちゃんのふつう』との理解が進んでいます。
歩けないけど車椅子で散歩することが好き。楽しいと笑い、吸引にはいやな顔で抵抗する。など意思があることも各学年なりの解釈を持ち接してくれます。
阿部さんの信念に共感を持ち、そのことが励みにもなっております。今後もご指導、情報提供などお力添えをお願いします。」

本当に、地域の学校への通学をお母さん自身が納得し選択してよかったと、つくづく思います。このケースが、「養護学校か、地域の学校か」で迷っているであろう後に続く親子に、どんなに勇気と光を与えることか。また、大人より子ども達の方が、柔軟性と受容性がありますね。
具体的には何の援助も出来ず、ただお母さんの心情に寄り添っただけの僕ですのに、こうした報告をいただけることは、本当に嬉しい限りです。かえって、ご家族との係わり合い方は「今のままでいいんだ」と僕自身が励まされます。

もし、皆さんの周りで迷っている親子がいましたら、選択肢の一つの参考に、このケースを紹介して上げてください。

（2003 年 10 月 23 日 記）